

RKU Today

流通経済大学広報誌

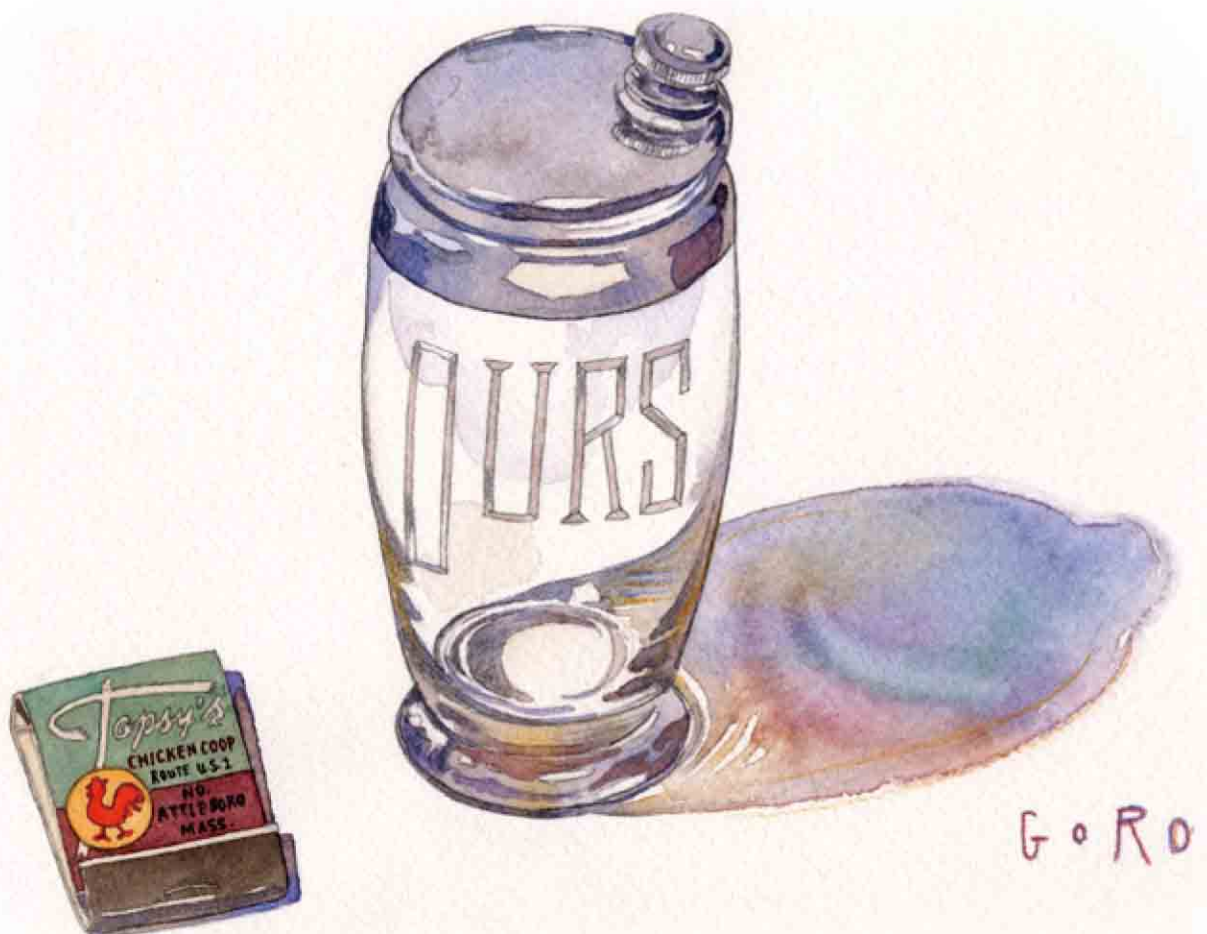
SUMMER 2010

vol.12

【開学45周年記念特集】

学部創設にみる流通経済大学

(前編)



流通経済大学

04

【開学45周年記念特集】

学部創設にみる流通経済大学(前編)

文：田畑 亨(スポーツ健康科学部講師)

10

【学長室だより】

大学教育とスポーツ

小池田富男(流通経済大学長)

12

【連載】コロンビア大学留学日記 その3

ニューヨークで見たこと聞いたこと

スカースデール村で暮らして

周 作彩(法学部教授)

14

Close Up!

流通経済大学 [教職員紹介]

16

【OB/OG 訪問】立川が聞く。

宮嶋一夫さん(1985年卒業・茨城県立水戸高等養護学校 教務主任)

取材：立川和美(社会学部准教授)

18

【馬場啓一のRKUウォッチング】

柔道部・中井貴裕選手に聞く

文：馬場啓一(法学部教授)

19

新任教職員紹介

20

2010年度後援会総会 報告

22

NEWS & TOPICS



スポーツ健康科学部の学生が海浜実習を行う沖縄・渡嘉敷島の海

巻頭言



夏は読書とスポーツ、これを心掛けてほしい。

諸君の肉体はご両親から受け継いだ大事なものであり、

人類の未来を担う役目を持っている。

そのための身体作りは、決して個人のものではなく、

地球を支えるためのものである。

古代ギリシャの神アトラスが、

その肉体で地球全体を支えている図を、

思い起こしてもらいたい。

その鍛えた肉体を、どのようにして人類の役に立てるか。

それを考えるのが知能である。

知性と教養で、その知能を有用のものとする。

そのために必要なのが読書である。

人生は限られている。

その限られた時間を有効に使うため

諸君は努力をする必要がある。

読書とスポーツのためにある夏はその大いなる機会なのである。



学部創設にみる流通経済大学

昭和40年(1965)に開学した流通経済大学は、平成22年(2010)に45周年を迎えました。それを記念して、今号と次号の2回にわたって開学からの歩みを紹介していきます。

文: 田畑 亨(スポーツ健康科学部講師)

流通経済大学 沿革 (1965年～1995年)

流通経済大学設置認可	1月	1965	東海道新幹線開業(1964年)／東京オリンピック開催(1964年)
流通経済大学開学・経済学部経済学科開設	4月		アメリカがベトナム戦争に直接介入
島田孝一学長就任(～1974年)			ビートルズ来日(1966年)
講堂兼体育館竣工	4月	1968	川端康成ノーベル文学賞受賞
経済学部経営学科開設	4月	1970	日本万国博覧会開催／沖縄返還(1972年)
産業経済研究所(現・物流科学研究所)設立	11月	1973	第1次オイルショック
佐伯弘治学長就任(～2001年)		1974	ベトナム戦争終結(1975年)
創立10周年記念図書館竣工	3月	1976	子門真人の「おかげ!たいやきくん」が大ヒット
創立10周年記念湯の丸セミナーハウス竣工	10月	1977	アップル・コンピュータ創立
創立10周年記念牛久グラウンド竣工	11月		共通一次試験(現・入試センター試験)始まる(1979年)
尚綱館竣工	9月	1980	モスクワオリンピック開催
澤村記念館竣工	10月	1981	スペースシャトル初打ち上げ
流通経済大学付属柏高等学校開校	4月	1985	つくば科学万博開催
北京経済学院(中国・現・首都経済貿易大学)と学術交流協定締結	8月		男女雇用機会均等法施行／バブル景気始まる(1986年)
新グラウンド(現・ラグビー場)竣工	10月		国鉄が分割民営化、JR発足(1987年)
4号館竣工	2月	1988	青函トンネル開業
社会学部社会学科開設	4月		東京ドーム完成
北京物資学院(中国)と学術交流協定締結	6月		瀬戸大橋開通
大学院経済学研究科経済学専攻修士課程開設	4月	1989	「平成」に改元／消費税施行(3%)
新図書館竣工	3月	1990	大阪府大阪市で国際花と緑の博覧会(花博)開催
広瀬記念グラウンド竣工	4月		東西ドイツ統一
大学院経済学研究科経済学専攻博士後期課程開設	4月	1991	湾岸戦争勃発
クイーンズランド大学(オーストラリア)と学術交流協定締結	7月		ソビエト連邦が崩壊
大学院社会学研究科社会学専攻修士課程開設	4月	1992	バルセロナオリンピック開催
北アリゾナ大学(アメリカ)と学術交流協定締結	4月		NTTドコモ創立
社会学部国際観光学科開設	4月	1993	サッカーJリーグ開幕
ペイラインテリオール大学(ポルトガル)と学術交流協定締結	5月		「就職氷河期」が始まる
大学院社会学研究科社会学専攻博士後期課程開設	4月	1994	日本人女性初宇宙飛行士(向井千秋さん)誕生
5号館竣工	3月	1995	阪神・淡路大震災
南ソウル大学(韓国・現・南ソウル産業大学)と学術交流協定締結	10月		東京地下鉄サリン事件
タマサート大学(タイ)と学術交流協定締結	11月		



昭和43年頃のキャンパス



講堂兼体育館(昭和43年4月竣工)



開学直後の学生食堂。現在はレーニング場として活用されている



開学式(昭和40年4月)



現在の龍ヶ崎キャンパス全景(上)と、昭和51年頃のほぼ同アングルからの全景(下)

四五周年を迎える流通経済大学は、経済学部経済学科でスタートし、その後、社会学部・流通情報学部・法学部・スポーツ健康科学部と学部学科の増設を行い、茨城県龍ヶ崎市と千葉県松戸市にキャンパスを有し、五学部八学科、約五五〇〇名の学生を抱える中規模大学として発展を遂げてきた。

昭和三九年(一九六四)、東海道新幹線の開業、アジアで初となる東京でのオリンピックの開催と戦後の混沌とした社会から大きな変化を遂げ、日本が活気づいてきた翌年、流通経済大学は、まさにこれからの高度経済成長を担う人材の養成を行う大学として誕生した。

四五年という歳月の評価は様々あるが、この四五五年の間に世の中が大きく変化したことは間違いない。年号も昭和から平成へと、また時代は誰もが夢みていた二一世紀に突入した。

今号と次号の特集では、四五周年を迎えた流通経済大学を、学部学科創設を一つのポイントとしてこれまでどのように発展を遂げてきたかを、二回に分けて振り返ってみる。

龍ヶ崎の地に開学

昭和四〇年(一九六五)、流通経済大学は「流通経済一般に関する研究と教育を振興して、わが国経済の飛躍的發展を図るとともに、深く人文科学を攻究し、教養ゆたかな、視野の広い指導的人材を育成して、国民経済の健全化と福祉の増進を図る」という建学の精神のもと、茨城県龍ヶ崎市の地で開学した。

平成二二年(二〇一〇)で創立

単科大学としての船出

昭和三〇年代から昭和四〇年にかけて日本は、池田勇人内閣のもと「国民所得増進計画」が策定され高度経済成長を遂げていった。このような中、国民の所得は着実に増加し、家計にゆとりがはじめるようになり、その中で教育への投資が行われ、大学進学希望者が増加し始めたのである。当時の文部省年報の統計によると昭和三五年から昭和四四年の間に大学の数は二四五校から三七九校へと一三四校も増え、また大学進学率も一〇・三%から二一・四%となっている。

高度経済成長下の我が国では、労働力の需要が高まる一方で、技術革新に伴う作業内容に対応できる高度な専門知識を持った労働力の不足という問題も抱えるようになってきた。また労働者の賃金上昇に伴って物価も上昇した。

このような状況の中で生産と消費とを結ぶ媒介、「流通」という分野が注目され、産業界における「流通」の専門家養成が急務とされてきたのである。このよ



現在の6号館の
敷地にあった図
書館閲覧室
(昭和43年頃)



開学当初の第一
学生寮
(昭和40年頃)



車の乗入れが可
能だった頃のキャン
パス
(昭和46年頃)



現在の2号館東側
広場でくつろぐ学生
(昭和43年頃)



3号館横のベン
チに座る学生たち
(昭和45年頃)



創立20周年記念
式典
(昭和60年11月)

更なる飛躍に向けて—創立45周年にあたり—

二〇二〇年度入試結果を受けて

流通経済大学は本年度創立四五年目を迎え、微力ながら、初代の島田孝一学長から数えて五代目の学長職を務めさせていただいております。本学はこの四五年の間に、規模においても経営においても様子が変わり、また本学への社会的評価も、大きく変化してきました。少子化に伴う一八歳人口の減少によって、私立大学の半数が定員割れをおこす中、本学も例に漏れず受験者数を減らしてきました。しかし、ここに至って受験者数は大幅な増加に転じ、二〇一〇年度の一般入試では、かつてない高い偏差値の学生たちを受け入れることが出来ました。入学者の基礎学力の水準において都内の伝統校と並ぶまでになり、誠に喜ばしい限りであります。これを機に一層の教育改善を図り、更なる飛躍によって、輝かしい創立五〇周年を迎えたいと考えております。

経営と財務の状態

本学は創立当初は、設置母体である日本通運株式会社の社員の子弟をはじめ、全国から優秀な学生たちが集り、少人数のゼミナールを中心に手作りの教育が行われて、毎年一〇〇%に近い就職内定率を達成するなど、本学は高い評価を得ていました。その後「日通事件」を契機に、日本通運株式会社が実質的に本学の経営から引き上げ、代わりに当時の佐伯弘治学長(現学園長)のもとに、学内理事会と教授会による自主的な大学運営が行われるようになり、今日に至っております。その後の経営努力によって、本学は全国の私立大学の中でもトップクラスの健全な財務状態を維持しております。またその間に、大学創立二〇周年の記念事業として、大学が自らその資金を拠出し、将来の良質な学生の確保を目的に、千葉県に流通経済大学付属柏高等学校を設立しました。

「自立」以降の大学の現況

この日本通運からの「自立」以降、一八歳人口の急激な増加にも支えられて、現在では二つのキャンパスに五学部八学科と五大学院研究科を擁するまでになり、学部の入学生定員が一二三〇名に及ぶ文系の中規模総合大学に成長しております。最盛期には一万人を超える受験生にも恵まれ、それを背景に、積極的に学部学科の増設を続けてきたことの結果です。しかしその後は一八歳人口の減少によって急激に受験生が減り始め、定員割れを起こすようなことはなく、各学部の偏差値は下がりはじめました。そこで、受験生確保を盤石なものにする為、新たに新松戸にキャンパスを開設し、わが国初の「キャンパス選択制」を採用することで、一応の成果を得ることができました。また、新たにスポーツ健康科学部を設置することで、基礎学力の高い優秀な学生を多く確保することもできております。

「大学の評価」について

ただ一八歳人口の減少期における大学間競争の激化は、本学の入試における学部学科間の格差の拡大という形で影響し始め、学部学科ごとの入試倍率に大きな違いをもたらしております。このままでは、学部学科によっては、将来の学生の質の低下が懸念されたことから、就任以来様々な取り組みを行って参りました。何よりもまず、高等教育機関としての「大学の評価」を、受験してくる「学生の評価」の一つにすぎない偏差値を基準にするといった、世間一般の誤解を正す必要があると考えております。本学が、企業や地域社会との連携によって創立以来「実学」に特化した特色ある「教育課程」を編成しており、また内外の学会の最先端で活躍する高い「研究水準」の教員スタッフを多く擁して、国内のどの大学と比較しても全く遜色のない高い実力を有していることを、正當に評価していただかなければならぬからです。

教育と研究の質と水準

学長就任以来これまで多くの高校を訪問させていただき、こうした本学の「教育の特色」や「研究水準の高さ」について説明し、ご理解いただけたことが、今年度の入試においてとりわけ「推薦入試」での急激な志願者数の増加につながったのではないかと考えております。その成果を踏まえ、このたび各学部学科の学術的内容や各教員の研究経歴と研究業績、社会貢献活動等について詳細に紹介するため、「Faculty Profiles」教授陣の研究と教えから知る流通経済大学」という、小冊子を作成しました。それを配布することで、本学の教育と研究に対する社会的評価を高めたいと考えておりますが、これこそたんなる入試広報ではない、学術的な内容に即した本来の大学広報の在り方ではないかと思っております。これによって、流通経済大学に入学すればどの教員の下でどういう研究が出来るのかも、容易に判断できるようになったかと思っております。

各種教育プログラムの構築

さて、大学の評価は、結局は「教育の質の保証」であり、そしてまた「卒業生の質の保証」にあります。そこで本学では、それを実現するため、まず「学びのトレイニングI・II」という、一年ゼミナールにおける「指導の手引書」を作成し、低学年のうちに各種「論理的思考のトレイニング」をはじめとする「学びの技法」をどう教えるかについて、個々の教員の裁量に任せるのではなく、大学が組織として担保する体制を整えております。また現在、就職支援体制を強化するため、一年生から四年生までの全ての学部学生を対象にした「キャリア支援のための教育プログラム」を作成しており、それをテキストとして纏めるための準備作業に入っております。流通経済大学は、今後とも本学の教育の柱である「専門的職業人の育成」を裏切るものとする為、教育課程の充実を図って参りたいと考えております。

平成二二年四月五日

学長メッセージ 流通経済大学長 小池田富男



昭和43年11月 正門に掲げられたつくばね祭の横断幕



六月祭のスナップ(昭和52年頃)



澤村記念館建設前まであった屋外プール(昭和52年頃)



現在の3号館体育指導センター前が通学バスの停留所だった(昭和45年頃)



1号館完成とともに導入されたパソコン教室(平成5年頃)



昭和63年2月に竣工した88年館(現:4号館)



昭和56年10月に竣工した澤村記念館

流通経済大学の開学当初我が国は、高度経済成長を成し遂げ、安定した生活を獲得した一方、国際問題として食糧問題や環境問題、貿易摩擦や東西冷戦にみる政治紛争がおき、また国内に目を転じてみると、地域社会のコミュニティの崩壊と我が国を取り巻く環境が大きく変化し新たな問題を抱えるようになってきた。

そして一九八〇年代後半から一九九〇年代初頭にかけて、我が国は日本経済史に残る空前の好景気にわき、また、第一次ベビーブームの時代に出生した子供が大学入学の時期を迎えるという時代背景の中、流通経済大学は、社会学部を新たに増設した。

社会学部設置は、開学から二〇年の間、大きく変化を遂げた国内外における現代社会の問題に対応できる人材育成を目的としたもので、昭和六三年(一九八八)に社会学部社会学科が、続いて平成五年(一九九三)には社会学部国際観光学科が開設された。

社会学部の開設

流通経済大学の開学当初我が国は、高度経済成長を成し遂げ、安定した生活を獲得した一方、国際問題として食糧問題や環境問題、貿易摩擦や東西冷戦にみる政治紛争がおき、また国内に目を転じてみると、地域社会のコミュニティの崩壊と我が国を取り巻く環境が大きく変化し新たな問題を抱えるようになってきた。

そして一九八〇年代後半から一九九〇年代初頭にかけて、我が国は日本経済史に残る空前の好景気にわき、また、第一次ベビーブームの時代に出生した子供が大学入学の時期を迎えるという時代背景の中、流通経済大学は、社会学部を新たに増設した。

社会学部設置は、開学から二〇年の間、大きく変化を遂げた国内外における現代社会の問題に対応できる人材育成を目的としたもので、昭和六三年(一九八八)に社会学部社会学科が、続いて平成五年(一九九三)には社会学部国際観光学科が開設された。

当時の学生生活

大学の学園祭(つくばね祭)は、大学開学の翌年の昭和四一年(一九六六)から実施され今年まで続いている。つくばね祭開催の前年には学生、教職員の交流や親睦を深めることを目的に「体育祭」が実施されていた。体育祭では、バレーボール・ソフトボールなどの競技が行われ、ゼミの対抗戦で行われていた。昭和四六年には、「六月祭」と名称を変更して行われていた。

全国各地から学生が集まり自宅から通学が困難な学生には学生寮が完備されていた。学生寮の収容人数は一〇〇名ほどであった。当時は、北海道出身者と九州出身者でペアを組ませ同室させていた。遠方同士のペアになることでお互いの方言を理解するのに精一杯で、ノイローゼになる学生も現れたという。また、学生寮では、寮祭を開催していた。寮祭では、マラソン大会やパン食い競争、風船割りといったことが行われ、学生同士の交流を深めていった。



現在の中央広場にあった聖拳の近くでくつろぐ学生(昭和43年頃)



にぎわう学生食堂(昭和44年頃)



キャンパス中央広場(昭和45年頃)

Interview

久川太郎教授に聞く

開学当時助手として着任され、現在スポーツ健康科学部の久川太郎教授は、当時をこう振り返る。



当時の学生からは「自分たちで大学を創り上げていこう」という雰囲気を感じられました

大学四年の六月、流通経済大学への就職の話がありました。当時、学生ハンドボール連盟の副会長をやっていただけで、特に就職活動もしておらず、すぐに流通経済大学への就職を決めました。そして、その年の夏以降は、日通の本社に呼ばれ、大学設置の業務を手伝っていました。行った仕事は、図書館に入

れる本の買い付けや入試事務等でした。その後、どこにあるのかもわからない龍ヶ崎からも仕事の応援で呼ばれ、それをきっかけで龍ヶ崎を初めて訪れました。このように大学四年生のほ

とんどを、流通経済大学の設置業務に携わる日々を送っていました。

このような中、現在の2号館しかなくまた「校旗も校歌もない」状態で全国各地から約二〇〇名の入学者とその倍の保護者を迎えて、厳粛に入学式が行われたのは、とても印象に残っています。

私は、当時若かったので学生寮の寮官も務めていました。学生がよく私の部屋を訪れてきていろんな話をしたのはとてもよい思い出です。話した内容は様々で「恋愛の話」「将来の話」「この大学をどのようにすればよいか」「日本をどうしたらよいか」などでした。また、夜中あまりにも話声がうるさく電気のブレーカーを落とされたこともあり、学生たちは、ロウソク

光一つで話をし続けていました。当時の学生は、玉石混濁ではありましたが、「自分たちで大学を創り上げていこう」という雰囲気が感じられました。

流通経済大学は、この四五年の間に単科大学から総合大学へと変化を遂げました。すべて時代の要請に応えるべく学部の増設を行ってきましたが、これからも、流通経済大学は、社会で活躍する有能な人材を輩出できる大学であり続けることを望んでいます。



開学間もないころの学生たちの様子

学長の活動
2010年2月～4月

- 2月3日
全学入試協議会
- 2月4日
龍ヶ崎市日中友好協会主催
留学生交流会出席
- 2月18日
全学入試協議会、大学院委員会
- 2月19日
流通経済大学観光シンポジウム
(新松戸キャンパス)
- 2月24日
大学協議会
- 3月1日
付属柏高等学校卒業式出席
- 3月2日
大学院委員会、全学入試協議会
- 3月10日
入学試験
- 3月11日
RKU WEEK説明会、
拡大全学入試協議会、経済学部納会出席
- 3月17日
入学試験、大学協議会、全学入試協議会
- 3月18日
社会学部納会出席
- 3月19日
経済産業省産学連携事業
人材育成委員会、入試委員慰労会
- 3月20日
平成21年度卒業式
- 3月23日
付属柏高等学校入試担当教員慰労会
- 3月25日
学内理事協議会
- 3月27日
オープンキャンパス(龍ヶ崎キャンパス)
- 3月29日
理事会・評議員会
- 4月1日
平成22年度入学式、
新任教員研修会、教員辞令交付式
- 4月7日
竜ヶ崎第一高等学校入学式出席
- 4月8日
付属柏高等学校入学式出席
- 4月9日
ラグビーU20日本代表太田ゼネラル
マネージャー、元木ヘッドコーチ、
中竹ディレクター以下来訪
- 4月20日
全学入試協議会、学部長連絡会議、
新任教員歓迎会



識」、コミュニケーション能力等の育成について、スポーツに期待されることが多くなった。競技スポーツへの参加によって、向上心や競争心が掻き立てられ、目標に向けて工夫と改善を行うようになるだけでなく、対戦相手の情報収集や予測とコミュニケーションを行うようになるなど、社会人としては当然の習慣も身に付くといつてよい。こうした「人間力」の醸成については、教室内での知識伝達型の講義では多くを期待できないだけに、スポーツ及びスポーツ指導者の果たす役割は大きい。また見るだけのスポーツであっても、国境や民族、言語を超えて、深い感動を人々に共有させるといふ意味においては、絵画や音楽等にも共通する、普遍的な「文

化」としての一面を持つ。それは時には民族精神を鼓舞するだけでなく、異文化コミュニケーションのツールとして、平和と友好の手段にもなっているのである。さて、流通経済大学では昭和四〇年の創立以来、スポーツを中心に重点部政策を通じて、学生の課外活動を積極的に支援してきた。いわゆる「スポーツ推薦入学制度」を導入したのも、他大学に先駆けてのことであったが、これは、スポーツにおいて全国レベルの一流選手は、人間性においてもまた学業においても、他の学生の模範になりうるのと理解に基づくものであった。特に本学では、柔道や剣道、硬式野球、ラグビー、サッカー等において優れた指導者に恵ま

れたこともあり、選手諸君の目覚ましい活躍は、一般の学生たちやOB、OGに十分な誇りを持たせてくれる内容であった。しかも本学では、いかに重点部といえども、正規の授業を欠席してまで練習することなど一切認めておらず、あくまで課外活動として分をわきまえての活躍であっただけに、称賛に値するものである。こうした中で、平成一八年四月に本学の五つ目の学部として入学定員二〇〇名のスポーツ健康科学部スポーツ健康科学科が開設され、経済学部と並ぶ本学の看板学部として、多くの受験生を集めている。特に龍ヶ崎キャンパスでは、最新鋭の施設設備を備えた「スポーツ健康センター」をはじめ、全面人

工芝のサッカーグラウンドやラグビー場、雨天練習場等があり、スポーツができる環境としては、全国の大学の中でもトップレベルの水準にある。これらはすべて学生の納付金によって作られたものであり、したがって一般の学生にこそ、勉学の合間にこれらの施設を十分に活用し、心身の鍛錬と健康の維持増進に励んでもらいたいものである。



ギムナシオン (gymnasium)
ヨーロッパの中等教育機関を意味するギムナジウムの語源は、古代ギリシアのギムナシオンにあり、それは若い男が身体と知性を磨く場所を指していた。その昔、古代オリンピックの出場選手は、このコリント式円柱のあるギムナシオン(体育場)で、競技モードに切り替え、練習していたのであろう。



【学長室だより】
大学教育とスポーツ
学長 小池田富男

スポーツは、人間の余暇活動にとどまらず、古くから教育活動における重要な要素ともなってきた。古代ギリシアでは、「読むこと・書くこと・算術」を中心に教える六歳から一四歳までの初等教育をふまえ、一四歳から一八歳までの中等教育は「ギムナシオン」と呼ばれる教育機関で行われ、もっぱら「体育と音楽」に重点を置いて、アテネの「良き市民」になるための情操教育が行われた。我が国でも、昭和三六年に制定された「スポーツ振興法」に基づいて、平成一二年九月に「スポーツ振興基本計画」が文部省(現文部科学省)より出され、「豊かな人生」(Quality of Life)を送る為の手段として、少子高齢化時代における「生涯スポーツ」の重要性が指摘されている。現代において教育の一環としてスポーツを捉えるとき、それは「知育・徳育・体育」の三面の全てを併せ持つものとして理解しなければならぬ。すなわちスポーツは、たんに「体育」だけでなく、「知育・徳育」においてもまた重要な役割を果たすものとなっているのである。競技や健康維持のためのスキルを学ぶというだけでなく、協調性や主体性、そして忍耐力を学ぶことにもなる。特に近年では、本来ならば家庭や地域社会が担うべき人間的成長のための教育機能が機能不全に陥っていることもあり、若者の「意欲」や「規範意



(左)スカースデール・ハイスクール



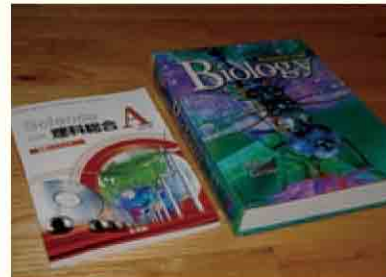
(右)小学校の一つ:Fox Meadow

中心とした住民が大多数を占めるコミュニティを形成していった。今でも、市ではなく村として維持されているのは、住民たちの意思でまちづくり等における高度の自治権を維持し、近隣市への吸収合併を回避するためである。良し悪しはともかくとして、ここに地方分権と称して市町村合併を国主導で強引に進める日本型地方自治との違いを見て取れよう。

私が住まいとしてスカースデールを選んだのは何よりもこの学校の評判が良かったからである。学区としてのスカースデールには、幼稚園生から五年生までの小学校 (elementary school) が五校、中学校 (二・三年) と高校 (四年) が各一校ずつある。アメリカでは、学区は特別公共団体として市町村から独立した存在であり、その財源は連邦政府や州政府からの補助もあるが、その大半を自ら調達しなければならぬ。そのため、高所得者が多く住み、不動産価値の高い地域は教育環境もよく、低所得者が集まる地域では学校が荒れていくといった傾向に陥りやすい。スカースデールは前者

の代表であって、その素晴らしい教育環境を求めてここに転入してくる住民が多く、学齢期の子どものうち九〇%以上が村内の公立学校に通っている。逆に固定資産税の負担が高いから、子どもが巣立った後、転出していく人も珍しくない。

スカースデール・ハイスクールは米州教育省に全米で一四四の優秀校の一つに認定され、卒業生のうち約九五%が大学に進学している。英語を母国語としないうちから第二言語 (English as a Second Language) も開講されている。少人数の特別クラスで英語を学ぶことができる。高校のシステムは日本と違い、どちらかという大学に似た仕組みで、部門別・能力別からなるカリキュラムが組まれていて、生徒はその中から選択して履修する。ホームルーム以外は固定のクラスがなく、生徒の学習生活指導に当たる複数の先生 (Dean と呼ばれている) がいて生徒の時間割作りやその他もろもろの相談や指導を行う。アメリカの学校では勉強が楽であるとよく言われるが、高校に関しては必ずしもそうとはいえない。少な



スカースデール・ハイスクールで使われる生物学の教科書 (右)と日本の高校の理科総合の教科書

【連載】
コロンビア大学
留学日記

ニューヨークで

見たこと

法学部教授
周 作彩 ZHOU Zuocai

聞いたこと

その3

スカースデール村で暮らして

留学生活のセットアップ(本連載-その1)、アメリカのロー・スクール事情(本連載-その2)に続いて、今回は生活拠点として住んでいた、ニューヨーク州はウェストチェスター郡スカースデール村(Scarsdale Village)のことについてご紹介しよう。



スカースデール駅前広場

スカースデール村はマンハッタンのグランド・セントラル駅から北へ電車で約三〇分ぐらい離れた閑静な住宅地で、美しい環境と教育水準の高さで有名な地域だ。東京の都心から電車で三〇分ぐらいというところ、ちょうど今私が住んでいる柏市がそうであるように、狭い家々が立ち並ぶ風景が思い浮かぶが、ここスカースデール村では日本の近郊住宅地とは全く別世界が広がる。この村の住居のほとんどが広い庭をもつ一戸建の家で、中にはテニスコートやプールがあるものも少なくなく、生垣や芝生もよく手入れされていて美しい。人口は一万八千人弱(二〇〇八年国勢調査)で、面積は一六平方キロ、人口密度約一千百人/平方キロ。村内には多くのグラウンド、公園、テニスコートがあり、プールやゴルフ場も完備されている。「マンハッタン近郊の軽井沢」といった趣きである。

ここに住んで最初に驚いたのはアメリカの自治体の仕組みである。本連載・その1にも書いたように、アメリカには日本の住民登録や外国人登録のような仕組みがなく、住み始めてしばらくは村役場がどこにあるかも知らなかった。日本では、基礎的自治体は地方自治法によってあまねく作られ、住民は必ずどこかの市町村に登録される。これに対し、アメリカでは、そもそも自治体はその地域の住民が住民投票で自治体を作ると決議してはじめてできるものである。自治体をもたない地域も珍しくない。そういう地域では、最低限の行政サービスは通常州の下部機関である郡 (County) によって提供される。しかし、警察や消防などの行政サービスが身近でなかったり、地域のことに自分たちの意思が直接反映されにくいということ

で、自治体をつくる運動が生まれ、住民投票などを経て自治体が結成される。それは文字通り「自治」体なのであって、住民たち自らの権能と責任において運営され、そのための税財源も自分たちで負担しなければならない。だから、貧しい地域では自分たちの負担で「自治」するよりは郡のサービスを受けたほうが良いという選択も当然ありうるわけである。

ともスカースデール・ハイスクールでは、教える内容も高度で、宿題も多く、生徒たちはかなりプレッシャーを感じているようである。私たちの滞在中に娘の同級生が線路に飛び降り自殺という事件も発生した。真相が不明だが、噂ではテストでAからA+になったことが原因の一つのことであった。

学校の運営管理に責任をもつのは教育委員会である。日本の教育委員会と違い、予算の編成・決定、教職員人事の採用など実質的な権限をもつ。メンバーは住民の直接選挙で選ばれるが、仕事は無給だ。教育委員会の会議は住民が参加しやすいように隔週の夜に開かれ、参加できなかった住民はケーブルテレビでその様子を見ることができ

PTA活動を支えるために、PTA A会費のほかには様々な方法で資金集めが行われる。その一つに毎年恒例の「Ways and Means Fundraiser」パーティが行われ、その中に「silent auction」というイベントがある。寄付されたさまざまなもの(先生と一緒に昼食を食べる券から有名芸能人のパーティ券まで、値段にして数ドルのものから数千ドルのものまで)をオークションにかけて資金集めをする。さながら日本の政治家の政治資金パーティのようなものである。ここでもアメリカ人のケタ違いの金銭感覚に驚くと同時に、アメリカ流「自治」の精神を見たような気がする。



緑に囲まれ、落ち着いた雰囲気のスカースデール公共図書館

スカースデール村の歴史は古く、一八七七年にニューヨーク市から直行の電車が開通したのに伴い、村の人口が増加しはじめ、一九一〇年代には学校が次々に建てられ、一九一五年に住民たちの意思によってVillageとして自治体の設立を見た(当時人口約三千人)。その後、ニューヨーク市の都市問題の深刻化に伴い、白人を中心とした富裕層が郊外へ移住するようになり、閑静な高級住宅地としてスカースデール村の価値が高まり、会社の重役、医者、弁護士などの高所得者を



【新松戸総合情報センター】
根本泰輔 図書・情報担当係長



【スポーツ健康科学部】
西機 真 講師



【法学部】
尹 敬勲 講師



【流通情報学部】
高田富夫 教授



【社会学部】
香川 真 教授



【経済学部】
山形万里子 教授

積み重ねが大事!

「パスワードを忘れました」「プリンターが詰まりました」
総合情報センターには毎日パソコントラブルを抱えた学生がやってくる。そんな時真っ先に対応してくれるのが本誌第3号でも特集されたヨリトモの学生たちである。
彼らも初めはパソコンに詳しくなかったわけではない。
対応を積み重ねることによって学習し、さまざまな問題をスムーズに解決できるようになっていくのである。
ヨリトモを結成して8年が経ち、OBやOGも折に触れて元気な顔を出しにきてくれるようになった。
学生時代の姿を知っているからこそ社会で遅く活躍する姿を見るのは大きな喜びである。
私も入職して8年。
対応の積み重ねによって多少は知識が蓄積がされてきたが、まだまだ勉強することは沢山ある。
学内の学習環境をサポートしながら、共に学び、考え、自らも成長していきたいと思っている。

まさに「アクティブ」

筑波大学大学院修士課程体育研究科在学中にアイルランドの日本人学校で体育教師を1年間務め、大学院修了後はマネジメントについて学ぶためにニュージーランドの大学へ。本学ではスポーツマネジメント論を担当。
つくば市でスポーツNPO「アクティブつくば」を設立し、地域のスポーツ振興に取り組む先生は、とてもアクティブでアイデア溢れるゼミ活動を展開。流经大オリジナルグッズを学園祭で販売したり、学内イベントとして「雪合戦」大会を開催した際には、ゼミ生を引き連れ北海道に体験旅行、審判資格を取得しに福島へ。バンクーバーオリンピック開催時には、カーリングをするため青森へゼミ旅行、とその行動力には脱帽である。
まさに「アクティブ」という言葉がぴったりな先生である。「Think Globally, Act Locally」を信条に、日々学生とアクティブに活動している。
筑波山神社のすぐ近くにログハウスを構え、5月には第二子が誕生し、公私ともに充実した日々を送られている。
(田畑 亨・記)

龍ヶ崎と新松戸で
楽しく教える毎日

韓国生まれで、教育学と国際関係論を学ばれた尹先生。本学では韓国語と1年生のゼミを担当されている。赴任されたのは2009年である。
「龍ヶ崎と新松戸、それぞれにゼミを担当し、楽しく教える毎日を送っています」
2つのキャンパスで、違いはあるのでしょうか。学生の気質とか授業態度は、いかが。「のんびりしているのは龍ヶ崎、新松戸は街中にあるということも影響しているのかもしれないが、都会的で自由ですね」
なるほど、それぞれ教え方に違いはありますか。
「それはありません。しかし新松戸は自由闊達であると同時に、それが授業における積極性に表れていますね。一言でいうと反応がよらしい」
そうですね、それはよくわかります。「一方龍ヶ崎の学生は規律ある態度で、万事が鷹揚です。じっくり学問に勤む態度に好感が持てます。どちらも大いに教え甲斐があります」
(馬場啓一・記)

私の授業:
ロジスティクス概論

本学流通情報学部にはロジスティクス関連科目が数多く開講されています。そうした中で私が担当するのは「ロジスティクス概論」という1年次配当科目です。流通情報学部の必修科目ですが、経済学部等々の学生も数多く選択履修しています。建学の主意を体現化する授業科目であるだけに、多くの学生が履修していることは大変喜ばしいことと思っています。
講義ではロジスティクスを「総合物流」と言い換えることもあります。貧弱な物流インフラのもとでは経済の発展はとても望めません。国家として物流インフラを整備する必要があります。製造業や流通業を営むほとんどの企業は日常的に物流と関わっています。そのビジネスは国境の壁を意識することなく営まれています。物流部門からは大量の温室効果ガスが排出され、地球環境に大きな影響を及ぼしています。
物流は私たちの生活と深く関わっていると同時に、地球規模のロジスティクス活動が展開されています。「グローバル」な視点で考え行動する人材の育成に微力を注いでいます。

日々、
観光の意味再考

観光という現象があり、観光学という学問がある。新しい学問領域であるが故に観光研究者、観光教育者にとって、「観光とは?」、「観光学とは?」の間にどう答えるかが、不断の課題となる。
国際観光学会の全国大会では、毎回、「観光の意味再考」のタイトルで報告を続けてきた。東京の桜美林大学で開催された2003年の第4回大会で「I」を発表。北海道千歳で開催された2010年春期の第12回大会では、「IX」の発表となった。いま、僕には、「観光は、観光旅行、観光交流、観光事業の3つの視点からとらえることができる」との確信がある。2007年に出版された『観光学大事典』(香川真編、日本国際観光学会監修)は、その枠組みで執筆、編纂されたものである。
茨城県を中心に、「観光のまちづくり」に協力、一方で、そのこと自体を研究と教育のフィールドとする日々が続いている。霞ヶ浦イキイキ化プロジェクト、阿見町の竹をめぐっての観光プロデュース、那珂市の道の駅、龍ヶ崎市の赤塚、などなど。観光研究、観光教育には明日への夢がある。

今の日本社会・経済を
知るためにその歴史を

私はこれまで陶磁器を題材にして日本近世近代の商品流通史・市場史を主な研究テーマにしてきました。もともと東西の陶磁器、とりわけ伊万里・柿右衛門・鍋島などの近世肥前陶磁に興味がありましたが、研究は陶磁器それ自体ではなく、その時代、社会のなかでどのように生産され、流通し、取引されていたのか、社会経済史的な側面を取り上げてきました。本学では「日本経済史」を担当していますが、社会学部・流通情報学部・法学部の選択科目でもあり、本年度からスポーツ健康科学部の学生も受講しています。
現在の日本の社会や経済を理解するうえで、20世紀後半以降の社会・経済の変容、発展の過程を学ぶことは大事だと思います。
授業は映像資料や私の生活者としての1970、80年代の体験なども交えてすすめています。平成生まれの若い人たちには、日本の近過去についてもっと知ってほしいと思っています。

● どんな人にも
「自分だったら、これ」
というものは
必ずあるはずです。

OB/OG訪問

立川が聞く。

Tachikawa hears.

学生時代のボランティア活動の経験が現在のお仕事に就くきっかけになったという、茨城県立水戸高等養護学校 教務主任の宮嶋一夫さんにお話を伺いました。

宮嶋一夫さん

(1985年 経済学部卒業)

Kazuo Miyashima

取材 /
立川和美(社会学部准教授)



大学に入学されてすぐに、とても印象深い出来事があったそうですね。

そうですね。入学式の時に、社会学を教えておられた渡辺博史先生が、「皆さん、御入学おめでとう！」という言葉は、今日は言いません。『おめでとう』が言えるのは、何かを成し遂げて卒業する時ですからね」とおっしゃったんです。入学早々のとても新鮮な言葉で、今でも強く印象に残っています。

それで、渡辺先生のゼミに所属され、ご活躍されたんですね。

展示したのですが、ただ書物に於いて調べるというのではなく、実際に外国の大使館や領事館にポイントメントをとって、生の声を伺ってくるという方法をとったんです。着慣れないスーツを着て緊張して行ったものの、相手の方が必ずしも日本語がそんなに上手でなかったり、大変なこともありましたが、非常に有意義な経験でしたね。

んですが、その中の一人が脳性マヒの方だったんですね。そういう方との接触がそれまでなかった私は、どう対応したらよいか分からず、ともかく「何かお手伝いしなくては」という気持ちばかりが先走りしておりました。しかし、彼はベッドメイキングから着替えから、基本的には何でも自分でやるんです。それで、できないことがある時だけ「悪いけど、手伝ってくれるかな」と声をかけてくれるんですね。その時に、「ああ、障がいのある人に対する自分の考え方は違っているんだ。」と痛感しました。それをきっかけに「養護学校」に興味を持ち、「自分にとって、このような学校こそが本当の教育がなされている学校」ではないかと、この仕事を選びました。

子どもたちが、卒業後、社会的な自立をしていくためにはどうしたらいいのか、知的障がい者が社会でどういった活躍ができるのかに取り組んできました。現在勤務している水戸高等養護学校では、卒業時の一〇〇%就職を目指しております。さらに卒業後の生活の中でのトラブルや悩みごとをケアできるように、学校をはじめ関係諸機関等で構成している「就労支援ネットワーク」という組織を持っています。このネットワークの立ち上げにも関わることができたことは、とても幸運でした。自分にとっても大変やりがいのある仕事だったと思っています。

子どもたちが、卒業後、社会的な自立をしていくためにはどうしたらいいのか、知的障がい者が社会でどういった活躍ができるのかに取り組んできました。現在勤務している水戸高等養護学校では、卒業時の一〇〇%就職を目指しております。さらに卒業後の生活の中でのトラブルや悩みごとをケアできるように、学校をはじめ関係諸機関等で構成している「就労支援ネットワーク」という組織を持っています。このネットワークの立ち上げにも関わることができたことは、とても幸運でした。自分にとっても大変やりがいのある仕事だったと思っています。

ていくことなのではないかと思っています。私の勤務先には知的障がいを持つ子どもたちが学んでいますが、入学時の硬い表情が、卒業する時には笑顔になり、一人ひとりが自信に満ちて、本当に成長が見られるんです。そのようなことに、私たちがどんなに勇気付けられるかということでしょうかね。今の仕事の醍醐味とも言えるかも知れません。

就職の免許を取ることは考えていたのですが、実はその当時、「学校」に対しては「限られた時間の中で、成果を出すことを教える場」というイメージを抱いておりました。学校教育そのものに対してあまり好感を持っていませんでした。しかし、日本青年奉仕協会の活動を通していわゆる「フリースクール」の存在などを知り、そういう学校なら、自分も携わってみたいと考えるようになったんです。

卒業後は、茨城大学教育学部特殊教育特別専攻科で一年間勉強し、修了後に茨城県立土浦養護学校に赴任しました。その後、友部養護学校に移り、現在の勤務先に至るのですが、幸いなことに、私はずっと生徒の進路指導に携わらせていただけてきております。知的障がい有する

今のお仕事の魅力はどんなところにありますか？
私自身は、本当に平凡な人間なのですが、「自分だったら、これはできる」ということが今の仕事だったのではないかと思っています。どんな人にも「自分だったら、これ」というものは必ずあるはずなんです。それを見つけて、どんなに小さなことでも他の人の役に立つことをし、それを自分の喜びにしながら仕事をし

最後に流経大生にひとこと
積極的に「仲間作り」をしてほしいですね。大学というのは、全国から学生が集まってきます。これが高校までと大きく違うところです。ですから大学で友達を作るといことは、全国に仲間を広げていくことなんです。私自身、今でも、いろいろ



Tachikawa hears.

お伺いしてすぐに、校舎内をご案内いただき、明るく穏やかな校風を感じることができました。2年生の生徒さんたちが、クリーニングやお菓子作り、エプロン作りなど、様々な実習に真剣に取り組んでいらっしゃったのですが、その出来栄は素晴らしく、とても驚かされました。宮嶋さんは、「3年生の生徒たちの現場実習先を探すのが大変なんです。流経大のOBの方にもぜひご協力いただけたらと思います」とご苦勞を漏らしながらも、懸命に取り組む生徒さんたちに、優しく元気なお声をかけていらっしゃり、楽しい学園生活が伺われました。

新任教職員紹介

2010年4月から新たに本学に着任した教員、職員を紹介します。



経済学部教授
奥野 正寛
担当科目:
公共経済学
最終学歴:
米国スタンフォード大学経済大学院
取得学位:
経済学博士(Ph.D)



経済学部講師
居城 琢
担当科目:
地域経済論
最終学歴:
横浜国立大学大学院国際社会学研究科グローバル経済専攻修士課程修了
取得学位:
博士(経済学)



社会学部講師
高橋 伸子
担当科目:
キャリアデザイン
最終学歴:
法政大学大学院経営学研究科キャリアデザイン学専攻修士課程修了
取得学位:
修士(経営学)



社会学部講師
岩崎 卓
担当科目:
柔道コーチング
最終学歴:
流通経済大学大学院社会学研究科社会学専攻修士課程修了
取得学位:
修士(社会学)



法学部教授
堀内 国宏
担当科目:
刑法(総論)
最終学歴:
東京大学法学部(第II類)卒業
取得学位:
学士(法学)



スポーツ健康科学部教授
田崎 健太郎
担当科目:
スポーツ行政論特講
最終学歴:
東京教育大学体育学部体育学科卒業
取得学位:
学士(体育学)



スポーツ健康科学部准教授
大槻 毅
担当科目:
スポーツ生理学
最終学歴:
筑波大学大学院博士課程体育科学研究科修了
取得学位:
博士(体育科学)



スポーツ健康科学部准教授
柴田 一浩
担当科目:
教職特論演習
最終学歴:
茨城大学大学院教育学研究科修了
取得学位:
修士(教育学)



スポーツ健康科学部准教授
高松 潤二
担当科目:
スポーツバイオメカニクス
最終学歴:
筑波大学大学院博士課程体育科学研究科修了
取得学位:
博士(体育科学)



スポーツ健康科学部准教授
山田 睦雄
担当科目:
スポーツ医学
最終学歴:
弘前大学医学部卒業
弘前大学大学院医学研究科修了
取得学位:
博士(医学)



教育学習支援センター専任所員
湊 照宏
担当科目:
基礎演習
最終学歴:
東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学
取得学位:
博士(経済学)



教育学習支援センター専任所員
三原 武司
担当科目:
教養諸学入門
最終学歴:
明治大学大学院政治経済学研究科政治学専攻博士後期課程修了
取得学位:
博士(政治学)



経理課
川村 典由
最終学歴:
流通経済大学法学部自治行政学卒業
在学時の所属:
へっちゃん(フットサルサークル)



就職支援課
武井 仁美
最終学歴:
流通経済大学スポーツ健康科学部卒業
在学時の所属:
ソフトテニス部(主将)・SASS(龍ヶ崎)



入試課
本山 祥吾
最終学歴:
流通経済大学スポーツ健康科学部卒業
在学時の所属:
硬式野球部(主将)

馬場啓一の
RKU
ウォッチング

法学部
ビジネス法学科2年
柔道部 中井貴裕

Keiichi Baba
RKU
Watching

柔道部・中井貴裕選手に聞く

今年二月に開催された柔道ワールドカップ・ウィーンに出場し、男子81kg級で優勝を果たした中井貴裕選手に、ロンドンオリンピックに向けての意気込みなどを聞きました。



●中井貴裕/なかい・たかひろ

1990年生まれ、愛知県出身。流通経済大学法学部ビジネス法学科2年。柔道部に所属し、階級は81kg級。高校3年の時に全日本ジュニアで2位、本学入学後には講道館杯で2位、今年2月のワールドカップ・ウィーンで優勝、さらに4月の全日本選抜体重別選手権大会でも優勝して9月の世界柔道選手権への出場が決定。その後6月のワールドカップ・マドリドで優勝するなど、快進撃が続いている。

柔道部の中井貴裕君は81kg級の選手権保持者である。二年後のロンドン・オリンピックでの活躍にも期待が掛かっている。忙しい練習の合間を縫って話を聞いた。頑丈な猛者を予想していた。だが童顔で、写真でお分かりのように、大きな身体に比べて顔が小さい。とても選手



右は岩崎 卓柔道部監督(社会学部講師)

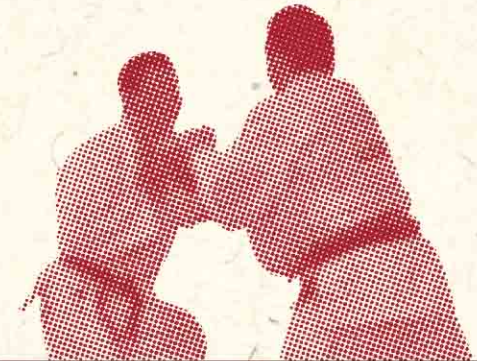
権保持者には見えない。可愛い、と言ってもいい顔立ちだ。大いに好感を持った。
ちなみに中井君は法学部の二年生、昨年小生の講義を受講した。「練習と授業、そして柔道部の寮での仕事を全てこなすのは、なかなか大変です。でも頑張っています」
運動部の寮は、ほぼ例外なく賄いの係りを外注している。し



かし柔道部だけは、食事をこさえるのも自分たちを磨く一環である、外の人間を雇わずに学生が行う。
「誰もがやるのですから、平気です」
それでも、好物は肉で、焼肉屋で腹いっぱい食べるのが無上の楽しみだという。
「最近ブラジルへ行きました。地球の裏側なので飛行機とバスで二十四時間かかりました。肉

の美味しいところだと聞いていましたが、日本の方が美味しいと思いました」
なかなか正直である。
「ロンドンのオリンピックには是非出場したいです。誰が相手になるか、まだ今の時点では判りません。だからただ練習するのみです」
愛知県の大府の出身。兄が柔道を習っており、その練習を見に行つて、自分もやる気になつたという。
「四歳のときでした。だからもう十五年くらい柔道をやっています」
大いに健闘を期待したい。

Judo
Takahiro
Nakai



第5号議案

2010年度収支予算に関する件

2010年度 収支予算書 自2010年4月1日 至2011年3月31日 (金額単位:千円)

項目	予算	備考
前年度からの繰越	16,263	
前年度の回収	2,000	
入会金	7,425	新入生1,550名(留学生130名)
会費収入	74,250	
計	81,675	
収入合計(A)	99,938	
通信費	3,700	学報「RKU Today」送料ほか
印刷費	2,350	学報「RKU Today」印刷、総会案内印刷ほか
会議費	200	
事務費	5,000	
父母懇談会費	7,500	会場使用料、案内状・配付資料作成ほか
雑費	300	
小計	19,050	
諸行事後援費	13,200	惜別会、卒業記念品ほか
小計	13,200	
求人開拓費	760	求人のための大学案内作成ほか
就職指導費	8,500	業界説明会開催費、指導用学生配布資料作成ほか
小計	9,260	
課外活動補助費	17,000	スポーツ安全協会傷害保険、課外活動用品ほか
大学祭・体育祭補助費	2,000	
クラブ顧問補助費	25,000	クラブ顧問付添費補助ほか
小計	44,000	
環境整備寄付金	2,000	
支出合計(B)	87,510	
翌年度へ繰越(A-B)	12,428	



第3号議案

2010年度役員選出に関する件

2009年度に引き続き、2010年度も次の方々が役員を務めることが決定いたしました。

会長	佐々木孝夫
副会長	高野郷美
	沼崎博康
監事	海老原雅枝
	神永 健
	大竹範男

以上

第4号議案

2010年度事業計画に関する件

2010年度 事業計画

2010年度は、本後援会の目的(会則第3条)及び事業(第5条)にそって、次の1~5に掲げる事業を推進していくものとする。

1 後援会会員(父母)と大学との連携

(1) 父母懇談会の実施に伴う諸費用の援助

開催都市	実施予定日
青森	6月25日(金)
秋田	6月26日(土)
仙台	6月27日(日)
龍ヶ崎キャンパス	7月 3日(土)
高崎	7月 4日(日)
新松戸キャンパス	7月10日(土)
甲府	7月17日(土)
静岡	7月18日(日)
熊本	7月24日(土)
広島	7月25日(日)
中国・大連	未定
合計	11会場

(2) 学報の発行及び費用援助

大学と父母を結ぶ広報誌「RKU Today」を季刊で発行する。

2 就職活動への援助

- 求人開拓に関する援助
- 就職指導に関する援助

3 課外活動に対する援助

- 文化系、運動系クラブに対する援助
- 課外活動関係設備を充実するための援助
- 課外活動傷害保険料の全額負担
- 大学祭(龍ヶ崎キャンパス・新松戸キャンパス)等諸行事への援助

4 その他の援助

- 環境整備への援助
- 卒業生に対する卒業記念品の贈呈、惜別会の開催

5 後援会奨学金

後援会奨学金の貸与

以上

2010年度後援会総会 報告

2010年4月1日に後援会総会が開催され、各議案について審議、承認がされました。本学後援会は在学生の父母で組織されており、学生の教育指導について大学と各家庭との連携を深め、流通経済大学の発展・向上をはかるために各種事業を行っています。

第2号議案

2009年度収支決算に関する件

2009年度 収支決算書 自2009年4月1日 至2010年3月31日 (金額単位:円)

項目	予算(a)	実績(b)	増減(a-b)	備考
前年度からの繰越	18,416,375	18,416,375	0	
前年度の回収	2,000,000	2,000,000	0	
入会金	6,600,000	7,235,000	△635,000	入学者1,443名(うち外国人留学生175名) 加えて2年・3年編入学者17名 入会金減免者13名、会費減額者22名
会費収入	66,000,000	67,351,250	△1,351,250	
利息収入	0	63,442	△63,442	預金利息
計	72,600,000	74,649,692	△2,049,692	
収入合計(A)	93,016,375	95,066,067	△2,049,692	
通信費	3,700,000	3,111,914	588,086	総会通知、学報「RKU Today」等郵送料
印刷費	2,350,000	2,219,813	130,187	上記印刷費等
会議費	200,000	158,274	41,726	
事務費	4,900,000	4,910,000	△10,000	
父母懇談会費	5,500,000	6,970,455	△1,470,455	父母懇談会の会場費等
雑費	500,000	233,836	266,164	振込手数料他
小計	17,150,000	17,604,292	△454,292	
諸行事後援費	13,200,000	10,864,700	2,335,300	惜別会費用、卒業記念品代他
小計	13,200,000	10,864,700	2,335,300	
求人開拓費	760,000	350,000	410,000	就職用大学案内作成費等
就職指導費	8,500,000	6,110,091	2,389,909	就職説明会等補助
小計	9,260,000	6,460,091	2,799,909	
課外活動補助費	17,000,000	8,248,339	8,751,661	クラブへの補助、グランド備品購入
大学祭・体育祭補助費	2,000,000	1,300,000	700,000	つくばね祭、青春祭への援助
クラブ顧問補助費	24,500,000	25,322,208	△822,208	遠征、合宿等の旅費等の補助
小計	43,500,000	34,870,547	8,629,453	
環境整備寄付金	2,000,000	2,000,000	0	
前渡金	0	2,000,000	△2,000,000	
税金	0	3,080	△3,080	
基金積増	0	5,000,000	△5,000,000	
支出合計(B)	85,110,000	78,802,710	6,307,290	
翌年度へ繰越(A-B)	7,906,375	16,263,357	△8,356,982	

財産目録 (2010年3月31日現在) (金額単位:円)

項目	金額	摘要
(一般資金)		
現金	197,138	手許残高
預金(常陽銀行 龍崎支店)	16,066,219	期末残高
小計	16,263,357	
(育英資金)		
定期預金(茨城県信用組合佐貫支店)	10,000,000	育英基金
定期預金(常陽銀行龍崎支店)	10,000,000	育英基金
定期預金(常陽銀行龍崎支店)	15,000,000	育英基金
定期預金(常陽銀行龍崎支店)	10,000,000	育英基金
定期預金(千葉銀行柏支店)	10,000,000	育英基金
定期預金(千葉銀行柏支店)	15,000,000	育英基金
定期預金(千葉銀行柏支店)	5,000,000	育英基金果実
普通預金(茨城県信用組合佐貫支店)	3,861,364	育英基金果実
育英基金貸付金	2,075,000	6名
小計	80,936,364	
合計	97,199,721	
負債の部	0	
差引正味財産	97,199,721	

監査報告書

流通経済大学後援会会則第10条第3項の規定により、2009年度流通経済大学後援会収支決算について諸帳簿を監査した結果、その内容についてはいずれも正当なものと認め、第13条の規定により報告いたします。

2010年3月24日

監事:神永健 監事:大竹範男

第1号議案

2009年度事業報告に関する件

2009年度 事業報告

2009年4月1日開催の後援会総会において、ご承認いただいた事業計画にもとづいて、次のとおり2009年度の事業を実施した。

1 後援会会員(父母)と大学との連携

(1) 父母懇談会の開催状況

開催都市	実施日	父母出席者数
福岡	6月20日(土)	19名
大阪	6月21日(日)	12名
新潟	6月27日(土)	19名
長野	6月28日(日)	7名
新松戸キャンパス	7月 4日(土)	356名
龍ヶ崎キャンパス	7月11日(土)	254名
宇都宮	7月12日(日)	28名
山形	7月18日(土)	21名
郡山	7月19日(日)	43名
中国・大連	6月21日(日)	35名
10会場		794名

(2) 学報の発行及び費用援助

大学と父母を結ぶ広報誌「RKU Today」を4回発行した。

2 就職活動への援助

後援会発足以来の重点施策の一つである大学の求人開拓や就職指導に関して全面的に協力し、併せて費用の一部を負担した。

3 課外活動に対する援助

- 文化系、運動系クラブに対する援助
大学の課外活動振興が円滑に推進できるよう、文化系、運動系にクラブに備品を購入する等の援助をした。
- 課外活動関係設備を充実するため援助した。
- 課外活動傷害保険料を全額負担した。
- 諸行事への援助
大学恒例の大学祭である龍ヶ崎キャンパス「つくばね祭」、新松戸キャンパス「青春祭」等の行事に対して援助金を交付した。

4 その他の援助

- 環境整備への援助
- スポーツ健康センターメインアリーナの完成に伴い、観覧を校友会と共に大学に対し寄贈した。
- 卒業生に対する卒業記念品の贈呈、惜別会の開催
3月20日の卒業式終了後、卒業生の門出を祝って、卒業生、教職員、父母を交えての惜別会を開催し、卒業生全員に記念品(置時計)を贈呈した。

以上

RKU Schedule
2010年8月～
2010年11月

全学

- [8月]・夏季休業期間
- [9月]・秋学期入学式／
秋学期授業開始
- [11月]・創立記念日
・つくばね祭
(龍ヶ崎キャンパス学園祭)

就職関連

- [4月]・第5回就職ガイダンス
【履歴書・エントリーシート対策】
- ・4年生内定者による
就職活動体験発表会
- [11月]・第1回就職セミナー
【企業が求める人材像】
- ・第6回就職ガイダンス
【OB／OGからのアドバイス】
- ・公務員採用試験説明会
- ・第7回就職ガイダンス
【面接実践指導】

【編集後記】

● 今号と次号で開学45周年を迎えた本学を紹介することになった。あと5年で半世紀を迎える。東海道新幹線が開業し東京オリンピックが開催された翌年、昭和40年(1965)4月に経済学部経済学科の単科大学として開学した本学の軌跡を是非お読みいただきたい。

● 話題は変わるが、リーマン・ブラザーズの経営破綻によって全世界を震撼させた恐慌状態からようやく脱しつつある世界経済は、今度はギリシャの財政危機がユーロの危機に発展し、その影響を受けてしまった。まさに景気回復への新たな障害が発生したことになる。

しかし、わが国をはじめ各国も景気の先行きに明るさが見えてきたと言われ始めている。景気の好不況は、就職に影響を及ぼすので4年生にとっても大きな関心事といえる。このまま景気が持続的に上向いていくことを切に願う次第である。

● 開学50周年を迎えるころには、わが国の政治そして経済は、どのような状況におかれているのだろうか。政治、経済等諸々の変化が、予想を上回るスピードでおきている。次代を担う学生諸君は、世の中の動きを常に把握し各界で活躍できる実力をつけるために勉学に取り組んでいかなければならない。

努力が、いつかきくと報われることを切に願っている次第である。
(編集子)

04

青春祭

6月19～20日の2日間、新松戸キャンパスの学園祭「青春祭」が開催されました。天気を心配される中での開催でしたが、学生を始め、地域の方々、多くの卒業生に会場いただき盛況のうちに終了しました。



05

**3年生を対象とした
就職ガイダンスがスタート**

いよいよ就職活動を始める時期になりました。就職は、これからの人生を左右する一大転機、どのような仕事に就き、社会とどのような関わり合いを持つのか、決心を迫られることになります。ガイダンス等に積極的に参加し、実社会へ船出する準備をしっかりと進めるように促しています。



06

海浜実習

6月29日～7月5日までの間、スポーツ健康科学部の学生が2班に分かれ沖縄県の渡嘉敷島での実習に参加しました。



01

入学式

4月1日、龍ヶ崎キャンパスにあるメインアリーナにて2010年度入学式が挙行されました。今年の入学者数は、学部生1,550人。大学院35人。入学式終了後、新入生は在学生の歓迎を受けながら、新しい大学生活のスタートを切りました。



**NEWS &
TOPICS**



02

RKU WEEK

入学式翌日の4月2日から9日かけて、新入生を対象とした本学の独自プログラム「RKU WEEK」を開催しました。ゼミ入門や各種ガイダンスなどで大学生活へのスムーズな導きができました。



03

名誉教授の称号授与

本学に多大な功績のあった寺阪昭信氏(元経済学部教授)と岡野功氏(元スポーツ健康科学部教授)に本学名誉教授の称号が授与されました。



左から小池田学長、寺阪名誉教授、鎌田経済学部長

左から小池田学長、岡野名誉教授、上野スポーツ健康科学部長

オープンキャンパス開催中

Welcome to Ryutsu Keizai University OPEN CAMPUS!

Schedule	龍ヶ崎キャンパス 茨城県龍ヶ崎市平畑 120	新松戸キャンパス 千葉県松戸市新松戸 3-2-1	〈開催時間〉 10:30 ~ 15:00
7月	31日 [±]	24日 [±]	〈主なメニュー〉 ● 学部学科発見コーナー ● 模擬授業／体験実習 ● 学食体験 ● 先輩とのフリートーク ● キャンパスツアー ● 保護者説明会 など
8月	8日 ^日 ・28日 [±]	7日 [±] ・21日 [±]	※事前のお申し込みは不要です。お気軽にご参加ください。
9月	11日 [±]	18日 [±]	
10月	30日 [±] ※学園祭「つくばね祭」同時開催	16日 [±]	



入試相談会

両キャンパスで開催中

個別に
ゆっくり相談
できる

〈平日〉 9:00 ~ 17:00

〈土曜日〉 10:00 ~ 14:00

オープンキャンパス開催日は
10:30 ~ 15:00

※開催日はホームページでご確認ください。

AO入試ガイドが
できました。



RKU GUIDE BOOK 2011 (大学案内)

入試センターまで電話かメールでご請求いただくか、ホームページの資料請求フォームからお申し込みください(送料共無料)。

流通経済大学入試センター

オープンキャンパス、入試相談会のお問い合わせ、
大学案内などの資料請求はこちらまで。

TEL **0297-60-1156** (入試センター直通)

e-mail ees@rku.ac.jp

URL <http://www.rku.ac.jp/go>

RKU

流通経済大学広報誌 **RKU Today vol.12** 2010年7月発行

編集・発行／学校法人日通学園 流通経済大学企画広報室

茨城県龍ヶ崎市平畑120 〒301-8555 TEL: 0297-64-0001 (代表)

